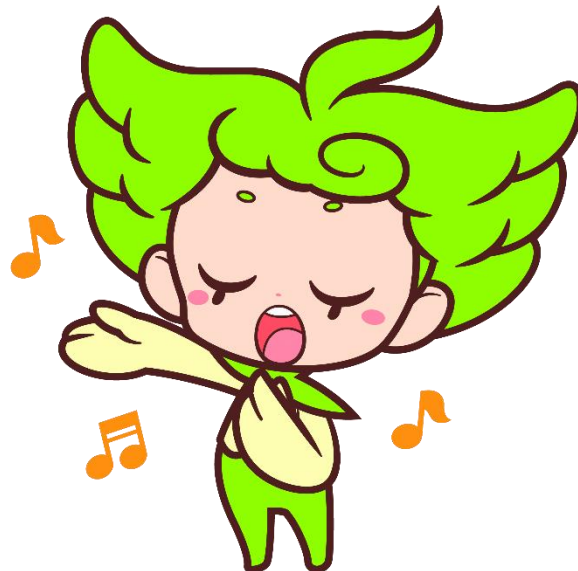


高校生／ティーンズの“推し本”



7月1日～8月31日の間、県内の高校生／ティーンズの皆さんの推し本を募集したところ、たくさんの応募がありました。

ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

古典的名作からライトノベル、SFに恋愛もの、ミステリー、ノンフィクションや児童書まで多彩な”推し本”が集まりました。

あなたの読みたい本もきっと見つかります！

令和2年10月27日
福岡県立図書館

～凡例～

推された
図書の画像です



『ぼくが宇宙人をさがす理由』 鳴沢 真也／著 旬報社

『書名』 著者・編者・訳者 出版者 を記しています。
同名の著書が複数あった場合は、福岡県立図書館が
所蔵し、かつ、貸出ができるものを記載しています。

なお、こちらをクリックすると、現在の貸出状況等を確認でき、
[パーソナルサービス](#)より予約をすることもできます

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

大学の天文台で働いているという著者が、真面目に“宇宙人”を研究するというギャップに驚き、手に取った本です。

タイトルにもなっている宇宙人を探す理由だけでなく、著者が宇宙に惹かれるようになったきっかけや、どのように夢を叶えたのかということも書かれていて、宇宙に関する知識がなくても楽しめます。

(投稿：りばあらいんさん)

おすすめコメントや投稿者のペンネームを記しています。
なお、明らかな誤字脱字は修正していますが、
原則として投稿されたままの文章を掲載しています。

目次

表紙.....	1
凡例.....	2
目次.....	3
押し本紹介.....	7
あ行	
『アウトサイダーの幸福論』 ロバート・ハリス／著 集英社.....	7
『青くて痛くて脆い』 住野 よる／著 KADOKAWA.....	8
『青の炎』 貴志 祐介／著 角川書店.....	9
『アバター』 山田 悠介／著 角川書店, 角川グループパブリッシング(発売).....	9
『1日1ページ、読むだけで身につく世界の教養 365』 デイヴィッド・S.キダー／著, ノア・D.オッペンハイム／著, 小林 朋則／訳 文響社.....	10
『いなくなれ、群青』 河野 裕／著 新潮社.....	11
『異邦人』 窪田 啓作／訳, カミュ／[著] 新潮社.....	12
『イマジン?』 有川 ひろ／著 幻冬舎.....	12
『ウチら棺桶まで永遠のランウェイ』 kemio／著 KADOKAWA.....	13
『海の底』 有川 浩／著 メディアワークス, 角川書店(発売).....	13
『海の見える理髪店』 荻原 浩／著 集英社.....	14
『Nのために』 湊 かなえ／著 東京創元社.....	15
か行	
『カエルの楽園』 百田 尚樹／著 新潮社.....	16
『かがみの孤城』 辻村 深月／著 ポプラ社.....	17
『か「」く「」し「」ご「」と「」』 住野 よる／著 新潮社.....	17
『風が強く吹いている』 三浦 しをん／著 新潮社.....	18
『学校へ行けなかった私が「あの花」「ここさけ」を書くまで』 岡田 麿里／著 文藝春秋.....	18
『仮面病棟』 知念 実希人／著 実業之日本社.....	19
『カラフル』 森 絵都／著 講談社.....	20
『君の臍臓をたべたい』 住野 よる／著 双葉社.....	21
『君は月夜に光り輝く』 佐野 徹夜／[著] KADOKAWA.....	22
『銀河鉄道の父』 門井 慶喜／著 講談社.....	22
『砕け散るところを見せてあげる』 竹宮 ゆゆこ／著 新潮社.....	23

『劇場』 又吉 直樹／著 新潮社.....	23
『獣の奏者』シリーズ 上橋 菜穂子／作 講談社.....	24
『恋する寄生虫』 三秋 継／[著] KADOKAWA.....	24
『コインロッカー・ベイビーズ』 村上 龍／[著] 講談社.....	25
『告白』 湊 かなえ／著 双葉社.....	25
『こころ』 夏目 漱石／著 ポプラ社.....	26
『ことり』 小川 洋子／著 朝日新聞出版.....	26

さ行

『最後のトリック』 深水 黎一郎／著 河出書房新社.....	27
『佐賀北の夏』 中村 計／著 新潮社.....	27
『サクラ咲く』 辻村 深月／著 光文社.....	28
『ザ・ハイト・ユー・ギヴ』 アンジー・トーマス／作, 服部 理佳／訳 岩崎書店.....	28
『山月記』 貴中島 敦／著, ねこ助／絵 立東舎, リットーミュージック(発売).....	29
『三国志 全9巻』 吉川 英治／著 六興出版.....	30
『静かな雨』 宮下 奈都／著 文藝春秋.....	31
『斜陽』 太宰 治／著 新潮社.....	31
『ジャングル・ブック』 R・キップリング／作, 木島 始／訳, 石川 勇／画 福音館書店..	32
『十字架のカルテ』 知念 実希人／著 小学館.....	32
『銃とチョコレート』 乙ー／著 講談社.....	33
『十歳のきみへ』 日野原 重明／著 富山房インターナショナル.....	33
『少女』 湊 かなえ／著 早川書房.....	34
『小説言の葉の庭』 新海 誠／著 KADOKAWA.....	34
『小説シライサン』 乙ー／[著] KADOKAWA.....	35
『新世界より 上・下巻』 貴志 祐介／著 講談社.....	35
『心霊探偵八雲』シリーズ 神永 学／著 文芸社.....	36
『スマホを落としただけなのに』 志駕 晃／著 宝島社.....	37
『聖女の救済』 東野 圭吾／著 文藝春秋.....	37
『精霊の守り人』 上橋 菜穂子／作, 二木 真希子／絵 偕成社.....	38
『世界から猫が消えたなら』 川村 元気／著 マガジンハウス.....	39
『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』 村上 春樹／著 新潮社.....	39
『そして、バトンは渡された』 瀬尾 まいこ／著 文藝春秋.....	40

た行

『対岸の彼女』 角田 光代／著 文芸春秋.....	40
『退出ゲーム』 初野 晴／著 角川書店, 角川グループパブリッシング(発売).....	41
『魂の冒険』 高橋 佳子／著 三宝出版.....	41
『チーム 1・2巻』 堂場 瞬一／著 実業之日本社.....	42
『チャーシューの月』 村中 李衣／作, 佐藤 真紀子／絵 小峰書店.....	42

『ちょっと今から仕事やめてくる』 北川 恵海/[著] KADOKAWA.....	43
『月の裏側』 恩田 陸/著 幻冬舎.....	43
『つぐみ』 吉本 ばなな/著 中央公論社.....	44
『ツナグ』 辻村 深月/著 新潮社.....	44
『ツバキ文具店』 小川 糸/著 幻冬舎.....	45
『つるぎのかなた 全3巻』 渋谷 瑞也/[著] KADOKAWA.....	45
『天才』 石原 慎太郎/著 幻冬舎.....	46
『天上の葦 上・下巻』 太田 愛/著 KADOKAWA.....	46
『天地明察』 冲方 丁/著 角川書店, 角川グループパブリッシング(発売).....	47
『読書間奏文』 藤崎 彩織/著 文藝春秋.....	47
『となり町戦争』 三崎 亜記/著 集英社.....	48

な行

『長浜高校水族館部!』 令丈 ヒロ子/文, 紀伊 カンナ/絵 講談社.....	48
『なぜ僕らは働くのか』 池上 彰/監修 学研プラス.....	49
『謎解きはディナーのあとで 全3巻』 東川 篤哉/著 小学館.....	50
『何者』 朝井 リョウ/著 新潮社.....	50
『なんのために学ぶのか』 池上 彰/著 SBクリエイティブ.....	51
『西の魔女が死んだ』 梨木 香歩/著 楡出版.....	51
『人魚の眠る家』 東野 圭吾/著 幻冬舎.....	52
『脳男』 首藤 瓜於/[著] 講談社.....	52

は行

『パズル』 山田 悠介/[著] 角川書店.....	53
『初恋』 トゥルゲーネフ/著, 沼野 恭子/訳 光文社.....	54
『美女と野獣』 ポーモン夫人/原作, こみね ゆら/絵, 末松 氷海子/訳 偕成社.....	54
『羊と鋼の森』 宮下 奈都/著 文藝春秋.....	55
『秘密』 東野 圭吾/著 文芸春秋.....	55
『舞台』 西 加奈子/[著] 講談社.....	56
『偏差値70の野球部 全4巻』 松尾 清貴/著 小学館.....	57
『ホームレス中学生』 田村 裕/著 ワニブックス.....	57
『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』 プレイティみかこ/著 新潮社.....	58
『ぼくは勉強ができない』 山田 詠美/[著] 新潮社.....	59
『ぼくらの七日間戦争』 宗田 理/作 ポプラ社.....	59

ま行

『魔眼の匣の殺人』 今村 昌弘/著 東京創元社.....	60
『真夏の方程式』 東野 圭吾/著 文藝春秋.....	61
『豆の上で眠る』 湊 かなえ/[著] 新潮社.....	62

『三日間の幸福』 三秋 継/[著] KADOKAWA.....	63
『ミッキーマウスの憂鬱』 松岡 圭祐/[著] 新潮社.....	64
『蜜蜂と遠雷』 恩田 陸/著 幻冬舎.....	64
『名探偵の掟』 東野 圭吾/著 講談社.....	65
『燃える秋』 五木 寛之/著 集英社.....	65
『木曜日にはココアを』 青山 美智子/著 宝島社.....	66
や行	
『優しい死神の飼い方』 知念 実希人/著 光文社.....	67
『誘拐遊戯』(所蔵は改題前の『あなたのための誘拐』) 知念 実希人/著 祥伝社.....	68
『妖怪アパートの幽雅な日常』シリーズ 香月 日輪/[著] 講談社.....	69
『容疑者Xの献身』 東野 圭吾/著 文藝春秋.....	70
『よるのぼけもの』 住野 よる/著 双葉社.....	71
『夜は短し歩けよ乙女』 森見 登美彦/著 角川書店.....	72
ら・わ行	
『ライオンのおやつ』 小川 糸/著 ポプラ社.....	72
『ラブレター』 岩井 俊二/[著] 角川書店.....	73
『私は虐待していない』 柳原 三佳/著 講談社.....	73
未所蔵の本	
『京都寺町三条のホームズ』シリーズ 望月 麻衣/著 双葉社.....	74
『小説ちはやふる 結び』 末次 由紀/原作, 有沢 ゆう希/著 講談社.....	74
『ちぐはぐな部品』 星 新一/[著] 角川書店.....	74
『はるなつふゆと七福神』 賽助/[著] ディスカヴァー・トゥエンティワン.....	74
奥付.....	75

～推し本紹介～



『アウトサイダーの幸福論』 ロバート・ハリス／著 集英社

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

やりたいことがいまいち定まらない人におすすめできるはず。

随筆っちゃ随筆。参考書と思えば(この表現はあまり好きではないが、俗に言う人生の)参考書。人のふり見てどうの。って感じの本。

厚さは薄めなので、ポケットに入れてちよくちよく読みながら学校を歩きまわっていた。内容は厚い。はず。

(投稿：ほぼ匿名 R.さん)



福岡県立図書館キャラクターの
ふっきょん です。
[Twitter](#) もやっていますので、
フォローお願いします！



『青くて痛くて脆い』 住野 よる／著 KADOKAWA

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

数多くある「青春」を描いた小説とは異なった「青春」を描いた小説で、二人の大学生を中心に広がる物語です。

もう少しで映画も公開されるので、ぜひ読んでみてください。

(投稿：I. Kさん)

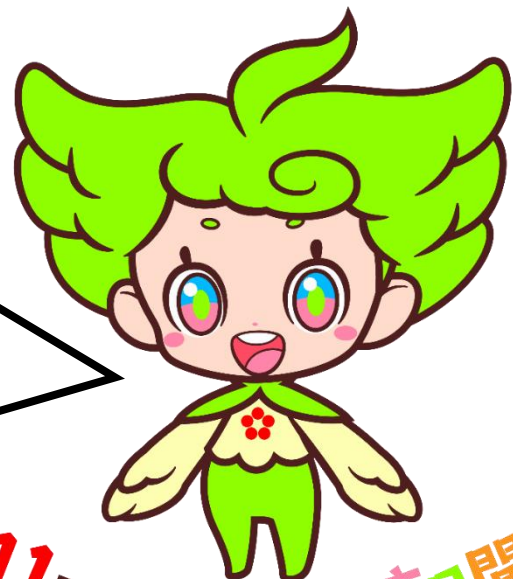
(この本を好きな理由／おすすめポイント)

最初は自分の理想の実現・達成のために作った大学のサークルを自らの手で壊そうとするときの主人公の田端楓の心情の変化や、主人公の周りの人間関係の変化が大きく書かれていて、最後まで飽きずに読み進められた。

特に楓とヒロインの秋好寿乃の関係性が大きく変化して面白かった。

(投稿：N. Tさん)

ふくおか教育月間の
イメージキャラクター
ミライルです！
オリンピック・パラリンピック
公式マスコットを制作した
谷口 亮さんのデザインです。



11月はふくおか教育月間



(古い資料のため、カバーがありません)

『青の炎』 貴志 祐介／著 角川書店

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

一人の少年の家族を守るための孤独な戦いが、細かい描写で描かれていて、読み手にも少年の思いや葛藤が伝わってきて、すごく考えさせられるし、ドキドキするところがおすすめです。

(投稿：O. M. さん)

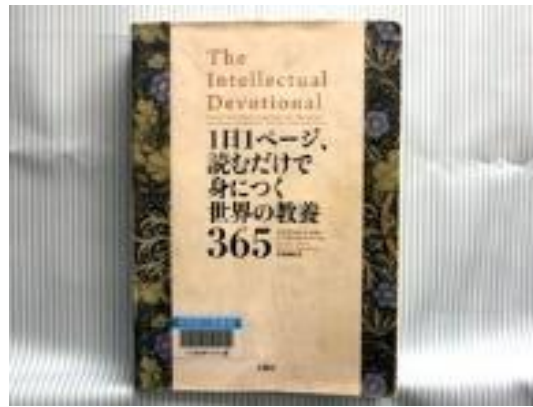


『アバター』 山田 悠介／著 角川書店、角川グループパブリッシング(発売)

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

主人公の性格や人間関係が逆転していくところ。

(投稿：H. K. さん)



『1日1ページ、読むだけで身につく世界の教養 365』
デイヴィッド・S.キダー／著，ノア・D.オッペンハイム／著，
小林 朋則／訳 文響社

(この本を好きな理由／おすすめポイント)
厳選された世界の人々の教えや人生が学べる。
1日1ページで良いので気軽に読める。
(投稿：R. Nさん)



福岡県立図書館では、
続巻である
『1日1ページ、読むだけで
身につく世界の教養 365
現代編』も所蔵しています。



『いなくなれ、群青』 河野 裕／著 新潮社

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

ある日、突然日常生活を送っていた男子高校生の七草は、自分の知らない土地にいることに気がつきます。

そこは現地に住む人から「捨てられた島」と呼ばれている階段島というところでした。

その島は地図にのっていないで、その島から出るには、自分の失ったものを見つけ、遺失物係に言うことが必要。

そこで、七草は自分の失ったものを探したが見つかりそうになく、そこでの生活に慣れてしまったところに真辺由宇という真っ直ぐな女子高校生と再会し、少しずつ、七草の考えや行動が変化していくところが興味深いです。

(投稿：A. Yさん)

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

みなさんの考える『成長』とはどんなものでしょうか？

自分の負の部分を受け入れながら成長する人もいれば、自分の負の部分を切り捨て、成長していく人もいる…。

もし、その切り捨てた部分が集まる場所があるとしたら？

あなたにとっての成長とはなんでしょうか…。

それぞれの『成長』を描いた長編ストーリー。

(投稿：Cさん)



『異邦人』 窪田 啓作／訳, カミュ／[著] 新潮社

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

一部で描かれた日常の行動が二部の裁判で影響しているところや、主人公の無気力さと真実に従う心をもつところがおもしろいと感じた。

(投稿：Mさん)



『イマジン?』 有川 ひろ／著 幻冬舎

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

主人公や映像制作会社のメンバーでたくさんの壁を乗り越える話がとてもおもしろいです。

(投稿：K. Kさん)



『ウチら棺桶まで永遠のランウェイ』 kemio/著 KADOKAWA

(この本を好きな理由/おすすめポイント)

作者と年代が近いので、日々の悩み事へのアドバイスがとてもためになり、共感しやすい作品。

(投稿：Korosukeさん)



『海の底』 有川 浩/著 メディアワークス, 角川書店(発売)

(この本を好きな理由/おすすめポイント)

海上自衛隊や人間サイズの甲殻類の群れがでてくる物語でサスペンスのようなところもある。

(投稿：Rさん)



『海に見える理髪店』 荻原 浩／著 集英社

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

この本は、6つの話が入った短編集です。

ほとんどのお話が家族をテーマにして書かれています。

自粛中、家にいる時間が多くなり、家族と生活する時間が長くなりました。

この本には改めて家族という存在のことを考えさせられる本で、読んでいて面白かったです。

(投稿：N. Mさん)

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

この本は全六編から成っていて、私は6つの中の一番最後の「成人式」という話がすごく感動しました。

亡くなった娘の代わりに父母が成人式に出るという話ですが、周囲の人々の温かさを感じられるすごくよい話です。

(投稿：S・Aさん)



2016年上半期に第155回
直木賞を受賞した本作は、
今でも根強い人気です！



『Nのために』 湊 かなえ／著 東京創元社(準備中資料)

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

この本にでてくる6人の主要人物のイニシャルにNが入っており、それぞれが恋をしている相手Nのためにお互いが秘密を隠し生きていく姿が描かれている。

色んな視点からこの物語を読み、最後まで楽しむことができる切なさに満ちたこの純愛ミステリーをぜひ手にとってみてほしいなと思う。

(投稿：K・Mさん)

今回の“推し本”の
応募総数は129件でした！
高校生／ティーンズの皆さん、
ご協力ありがとうございました！





『カエルの楽園』 百田 尚樹／著 新潮社

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

平和や戦争とはいったい何なのか考えさせられた。

(投稿：H. R. さん)

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

不思議なカエルたちの物語を通して、現代のとある国の政治を批判しているとも言われている本です。

インターネットで「カエルの楽園」と検索をかけると、様々な人の感想を読むことができます。

中には、自分と似た読み方をした人や、全く違う読み方をした人がいるはずです。

本編を読むことだけでなく、読了後の、いわば「感想戦」も楽しい本だと思います。

ぜひ読んでみてください。

(投稿：M・Nさん)





『かがみの孤城』 辻村 深月／著 ポプラ社

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

中学生のふしぎな体験の物語ですが、高校生や社会人、小学生など、老若男女すべての人が共感できるお話です！

(投稿：ハッカホクトさん)



『か「」く「」し「」ご「」と「」』 住野 よる／著 新潮社

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

私と同じ高校生のお話で、5人の登場人物の性格が似ているようで似ていなく、少しずつ変わっているの、それぞれの視点で読むと、考えや思いが全く違って、楽しく読めた。

5人の持っている“かくしごと”の大きさは読む人によって変わると思う。

また、友達との関係など共感できることも多いのでおすすめ！

(投稿：K. Mさん)



『風が強く吹いている』 三浦 しをん／著 新潮社

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

難しいルールも技術も必要としない“駅伝”という競技のたくさんのドラマや感動をこの本から感じました。

きっとお正月になんとか見ているような駅伝を2倍も3倍も楽しめるような作品です！

(投稿：Y. Kさん)



『学校へ行けなかった私が「あの花」「ここさけ」を書くまで』
岡田 磨里／著 文藝春秋

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

岡田磨里さんが脚本した作品をみてから読むのがオススメです。

(投稿：N. Kさん)



『仮面病棟』 知念 実希人／著 実業之日本社

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

最後まで犯人がわからないところがおもしろいです。

一度読むと続きが気になる作品です。

(投稿：Y・Rさん)



医師でもある著者が描く
医療ミステリーです。
続巻の『[時限病棟](#)』も
ぜひ読んでみてください！



『カラフル』 森 絵都／著 講談社

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

主人公が様々な人と関わっていくなかで、気持ちや行動が良い方向に変化するところは、読者である私たちにとっても良い影響を与えるものだと思ったから。

(投稿：Aさん)

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

1人1人の個性や生きている環境の違いがあるから、視野を広げて相手のことを考えて行動することが大切だということ。

(投稿：Mさん)

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

最後まで、罪を犯した魂がどんな罪を犯したのか、どんな人物であったのか分からないのでおもしろいです。

また、主人公の姿が様々な視点から書かれているので、違いも楽しめるので、オススメです。

(投稿：U. Mさん)

実写映画や劇場アニメの
原作となった本作は、
タイでも映画化されました！



高校生／ティーンズの推し本 投票数第1位



『君の臓腑をたべたい』 住野 よる／著 双葉社

(この本を好きな理由／おすすめポイント)
本の中の言葉や表現にひとめぼれしたから。
(投稿：のあちさん)

(この本を好きな理由／おすすめポイント)
最後意外な結末で、感動する話だから。
(投稿：A. Yさん)

(この本を好きな理由／おすすめポイント)
一緒に過ごしていく中で、主人公の男の子と女の子の気持ちの変化が読み取れるのが面白い。
何度読みかえしても感動する。
(投稿：S. Eさん)

(この本を好きな理由／おすすめポイント)
最後の展開が予想外で、自然と涙が出てくる。
(投稿：Yさん)

映画化された本作ですが、
福岡県立図書館では、
[オフィシャルガイド](#)や
[映画資料](#)も所蔵しています！





『君は月夜に光り輝く』 佐野 徹夜/[著] KADOKAWA

(この本を好きな理由/おすすめポイント)

発光病という不治の病にかかっているまみずのために、まみずが死ぬまでにやりたいことを代行して行う中で、様々な登場人物の生や死についての考えや心情が変化していくところがおもしろいです。

(投稿：M. Sさん)



『銀河鉄道の父』 門井 慶喜/著 講談社

(この本を好きな理由/おすすめポイント)

誰もが1度は読んだことがあるであろう宮沢賢治の作品で、その裏側を父親の目線で見ることができて面白いです。

宮沢賢治の新たな発見を通して、今までとは違う目線で宮沢賢治の作品を読んでみるのも楽しいと思います。

(投稿：U. S. さん)



『砕け散るところを見せてあげる』 竹宮 ゆゆこ／著 新潮社

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

全く関わりのなかった2人の男女が親しくなっていくのがおもしろいです。
彼女のいう“UFO”の意味がわかったときに、とてもおどろきます。

(投稿：Hさん)



『劇場』 又吉 直樹／著 新潮社

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

主人公と偶然、街で出会った女性の二人のラブストーリーで、心情の変化がおもしろいから。

(投稿：Y. Mさん)

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

ある一人の劇作家を目指して上京してきた主人公の大学生の物語。
人間のあらゆる感情が臨場感溢れる表現で描かれていて非常に面白かったです。

(投稿：Y. Sさん)



[『獣の奏者 1 闘蛇編』 上橋 菜穂子／作 講談社](#)
[『獣の奏者 2 王獣編』 上橋 菜穂子／作 講談社](#)
[『獣の奏者 3 探求編』 上橋 菜穂子／作 講談社](#)
[『獣の奏者 4 完結編』 上橋 菜穂子／作 講談社](#)
[『獣の奏者 外伝 刹那』 上橋 菜穂子／著 講談社](#)

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

この世には存在しない2種類の獣がいる世界での主人公エリンの生涯がかかれています。

エリンの会える人の温かみや冷たさが伝わってきます。

差別などのこともあるので今こそ読んでほしい作品です。

(投稿：U. S. さん)



[『恋する寄生虫』 三秋 穂／\[著\] KADOKAWA](#)

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

寄生虫によってもたらされた恋の切なさや喜び、悲しみと、三秋穂さんの世界観を読んで楽しんでほしいです。

(投稿：O. Wさん)



『コインロッカー・ベイビーズ』 村上 龍/[著] 講談社

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

あふれ出すような文章。

たまに活字を貪りたくなるような時、頭を文字による物体で埋めつくしてしまいたい時、逆に頭を空っぽにしたい時に読んでほしいです。

(投稿：SSさん)



『告白』 湊 かなえ/著 双葉社

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

最後の終わり方が衝撃的で印象に残り、何度も読みたくなるから。

(投稿：bauberさん)



『ココロ』 夏目 漱石／著 ポプラ社

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

この本は明治時代に書かれた小説です。

人の感情や情景描写のうつりかわりが読みとりづらい難しい本ですが、昔の人の文章を読んで国語力をきたえられると思います。

(投稿：Tさん)



『ことり』 小川 洋子／著 朝日新聞出版

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

小鳥と会話する兄とその弟のささやかで美しい世界にひきこまれます。

(投稿：A. Y. さん)



『最後のトリック』 深水 黎一郎／著 河出書房新社

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

この本を読むと「犯人は自分だ」と思えてとてもおもしろいです。

最後の“手紙”を読むまで物語を客観的に読んでいましたが、その“手紙”を読んだら全てのなぞが解けて、かつ、自分も犯人なんだと実感します。

(投稿：KYさん)



『佐賀北の夏』 中村 計／著 新潮社

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

同じ高校生ということで、共感できるところがたくさんあった。

今年は甲子園大会がないので、この本を読んでたくさんの人に、甲子園の気分を味わってほしい。

(投稿：きのこさん)



『サクラ咲く』 辻村 深月／著 光文社

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

とても爽やかな話で、共感できるような場面がたくさんあって、おもしろかったから。

(投稿：Sさん)



『ザ・ヘイト・ユー・ギヴ』
アンジー・トーマス／作，服部 理佳／訳 岩崎書店

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

この本の主人公はスターという黒人の女の子です。

物語はスターの親友でカリルという黒人の男の子が白人の警察官に殺されてしまうというところから始まります。

黒人の名誉のため主人公のスターが奮闘し、成長していくという物語です。

この本の中で主人公がくじけそうになった時にスターの母が言った「大切なのは正しい行いをやめないこと」という言葉がとても印象に残っています。

境遇の全く違う主人公スターに自分が重なり大きな勇気がもらえると思います。

(投稿：K. Y. さん)



『山月記』 貴中島 敦／著, ねこ助／絵
立東舎, リットーミュージック(発売)

(この本を好きな理由／おすすめポイント)
今までの教科書の内容で一番心をうたれたから。
(投稿：M・Kさん)

古典的名作である本作品ですが、
今回は、高校生／ティーンズにも
読みやすい本書を選びました。

ねこ助さんは
『祭火小夜の後悔』や
『夜葬』などの挿画も
担当しており、どれも
読んで・観て楽しめます！





- [『三国志 第1巻 桃園の巻』 吉川 英治／著 六興出版](#)
- [『三国志 第2巻 群星の巻』 吉川 英治／著 六興出版](#)
- [『三国志 第3巻 草莽の巻』 吉川 英治／著 六興出版](#)
- [『三国志 第4巻 臣道の巻』 吉川 英治／著 六興出版](#)
- [『三国志 第5巻 孔明の巻』 吉川 英治／著 六興出版](#)
- [『三国志 第6巻 赤壁の巻』 吉川 英治／著 六興出版](#)
- [『三国志 第7巻 望蜀の巻』 吉川 英治／著 六興出版](#)
- [『三国志 第8巻 凶南の巻』 吉川 英治／著 六興出版](#)
- [『三国志 第9巻 出師の巻』 吉川 英治／著 六興出版](#)

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

中国を舞台にした作品の魅力は、なんといっても、そのスケールの大きさなのではないかと私は思う。

史実や他者の書いた作品と、人物の描き方や戦いの様子を比較してみると、とてもおもしろい。

(投稿：φさん)

福岡県立図書館では
漫画文庫の『[三国志](#)』
横山 光輝／著 潮出版社も
全巻(1～30巻)
所蔵しています！





『静かな雨』 宮下 奈都／著 文藝春秋

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

文章がきれいで動作などをたくさん表現してあるので、頭の中で想像しながら読み進めるのがより一層楽しくなるような作品です。

(投稿：ぱっくんアイスさん)



『斜陽』 太宰 治／著 新潮社

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

太宰治が、戦後に自分の家が没落していく様子をもとに書いた本です。

貴族であった主人公かず子が、戦争や愛する母の死をきっかけに俗だらけの世へ落ちていく様が美しく描かれています。

かず子が恋する男が吐くキザったらしい台詞も必見です。

(投稿：きょんさん)



『ジャングル・ブック』

R・キップリング／作，木島 始／訳，石川 勇／画 福音館書店

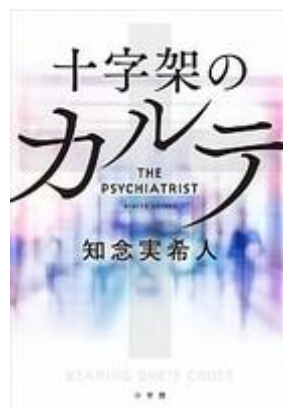
(この本を好きな理由／おすすめポイント)

迫力のある、鮮やかなジャングルの描写がすばらしかった。

仲間たちとオオカミとして暮らしていくモーグリの姿に感動した。

夢中になって読み進めることができ、とてもおもしろい物語だと思う。

(投稿：S・Rさん)



『十字架のカルテ』 知念 実希人／著 小学館

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

この本は、ある医者と主人公が精神病を患った患者を治していくという物語なのですが、その治していく過程で行われる医者の推理を楽しむことができます。

(投稿：ココさん)



(古い資料のため、カバーがありません)

『銃とチョコレート』 乙一／著 講談社

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

意外などんでん返しの連続で、とても読んでいて常にワクワクしっぱなし。

登場人物すべてに裏があって、その裏が明確になる度に驚いてしまう。

冒険小説&ミステリーって感じで何回読んでも飽きないし、何回も読むことで物語をつかめる。

(投稿：God enjoyさん)



『十歳のきみへ』 日野原 重明／著 富山房インターナショナル

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

この本が書かれた当時、95歳で現役の医師だった日野原さん。

そんな大先輩から今を生きる私達へ送られる言葉に、あなたもきっとグッとくるところがあるはず。

今一度、自分自身を見つめ直して、これからの人生、前を向いて見ませんか？

(投稿：U・Yさん)



『少女』 湊 かなえ／著 早川書房

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

この本の中に登場する人物、起こる出来事が誰一人、何ひとつ残らず段々と繋がっていくのが面白くて良い意味でゾっとするので、ページをめくるのがとても楽しい本です。

(投稿：K. Hさん)

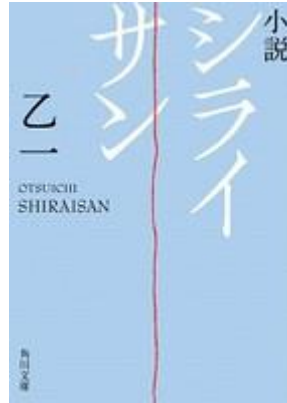


『小説言の葉の庭』 新海 誠／著 KADOKAWA

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

2人の視点で書いてあり、万葉集の歌にそって物語が進んでいく。

(投稿：I・Yさん)



『小説シライサン』 乙一/[著] KADOKAWA

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

主人公が高校生だから、共感しやすいです。

ホラーが好きな人も嫌いな人も、必ずシライサンの影におびえることになります。

みなさんも、乙一が作り出す世界に足をふみいれてみてはいかがでしょうか？

(投稿：D. H. さん)



『新世界より 上』 貴志 祐介/著 講談社 (所蔵なし)

『新世界より 下』 貴志 祐介/著 講談社

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

読書が苦手だった私でもおもしろくて、すぐに読み終わったからです。

1000年後の美しく作り上げられた世界が崩壊していく様が興味深かった。

(投稿：小エビちゃんさん)



- [『心霊探偵八雲 1 赤い瞳は知っている』 神永 学／著 文芸社](#)
[『心霊探偵八雲 2 魂をつなぐもの』 神永 学／著 文芸社](#)
[『心霊探偵八雲 3 闇の先にある光』 神永 学／著 文芸社](#)
[『心霊探偵八雲 4 守るべき想い』 神永 学／著 文芸社](#)
[『心霊探偵八雲 5 つながる想い』 神永 学／著 文芸社](#)
[『心霊探偵八雲 6 失意の果てに』 神永 学／著 文芸社](#)
[『心霊探偵八雲 7 魂の行方』 神永 学／著 文芸社](#)
[『心霊探偵八雲 8 失われた魂』 神永 学／著 文芸社](#)
[『心霊探偵八雲 9 救いの魂』 神永 学／著 文芸社 \(所蔵なし\)](#)
[『心霊探偵八雲 10 魂の道標』 神永 学／著 文芸社](#)
[『心霊探偵八雲 11 魂の代償』 神永 学／著 文芸社](#)
[『心霊探偵八雲 12 魂の深淵』 神永 学／著 文芸社](#)

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

この本は生来幽霊が見える赤い眼をもった主人公が怪事件を解決していくミステリー本です。

最大の魅力は人間の犯行に加え、「心霊」という要素があることでより謎めいた展開になっているところです。

赤い眼をもっていることに対して差別される描写もあり、人種差別等の社会問題とも合わせて考えることができます。

(投稿：ESさん)

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

生まれた時から幽霊を見ることが出来る主人公の八雲が、幽霊が与えてくれるヒントなどを元に様々な事件を解決するストーリー。

推理ものが好きな人にオススメ出来る1冊です。

(投稿：自由人さん)



『スマホを落としただけなのに』 志駕 晃／著 宝島社

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

近年、多くの人々がSNSに触れる機会が多いため、SNSの危険さを再度確認してもらいたいと思ったから。

(投稿：I. Hさん)



『聖女の救済』 東野 圭吾／著 文藝春秋

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

最後に明かされる驚愕のトリック、そして、この本を通じて考えさせられる「結婚」とは何か。

私が一番好きな作家の東野圭吾の最高の一冊です。

(投稿：ひよろ長亭梅虎さん)



『精霊の守り人』 上橋 菜穂子／作，二木 真希子／絵 偕成社

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

旅をしていくなかでの、バルサとチャグムの成長や心の変化が感じられておもしろいから。

作中に出てくる料理がどれもおいしそうだから。

(投稿：M. Oさん)

『精霊の守り人』から始まる『守り人』シリーズですが、福岡県立図書館の主な所蔵は下記より確認できます。



『闇の守り人』 上橋 菜穂子／作，二木 真希子／絵 偕成社

『夢の守り人』 上橋 菜穂子／作，二木 真希子／絵 偕成社

『虚空の旅人』 上橋 菜穂子／作，佐竹 美保／絵 偕成社

『神の守り人 [1] 来訪編』 上橋 菜穂子／作，二木 真希子／絵 偕成社

『神の守り人 [2] 帰還編』 上橋 菜穂子／作，二木 真希子／絵 偕成社

『蒼路の旅人』 上橋 菜穂子／作，佐竹 美保／絵 偕成社

『天と地の守り人 第1部』 上橋 菜穂子／作，二木 真希子／絵 偕成社

『天と地の守り人 第2部』 上橋 菜穂子／作，二木 真希子／絵 偕成社

『天と地の守り人 第3部』 上橋 菜穂子／作，二木 真希子／絵 偕成社

『流れ行く者』 上橋 菜穂子／作，二木 真希子／絵 偕成社

『炎路を行く者』 上橋 菜穂子／作，佐竹 美保／絵，二木 真希子／絵 偕成社

『風と行く者』 上橋 菜穂子／作，佐竹 美保／絵 偕成社



『世界から猫が消えたなら』 川村 元気／著 マガジンハウス

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

生と死について考えさせられ、人間として大切なことも学ぶことができます。
主人公が飼っている猫の描写も印象的なので、猫が好きな人にもおすすめです。

(投稿：ペンギンが好きな人さん)



(古い資料のため、カバーがありません)

『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』 村上 春樹／著 新潮社

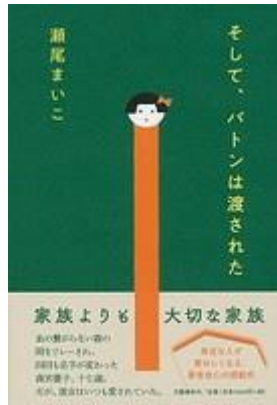
(この本を好きな理由／おすすめポイント)

全く別に見える「世界の終り」と「ハードボイルドワンダーランド」の世界観が
少しずつ合わさっていく様子が読んでいて飽きない。

本自体はとても長そうだが、読み始めると惹きつけられ、寝るのが惜しく
なったり、テスト前にずっと読んでしまったりしてしまう。

あえて説明せず、読んでいくと分かっていくワードなど、村上さんらしさが
でている本だと思った。

(投稿：ほぼ匿名 R.さん)



『そして、バトンは渡された』 瀬尾 まいこ／著 文藝春秋

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

血の繋がらない親の間をリレーされ、父親が3回、母親が2回変わる“優子”が成長とともに、親子関係を深めていく。

読み終えたら、身近な人が恋しくなる。

(投稿：Yさん)



『対岸の彼女』 角田 光代／著 文芸春秋

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

性格がまったくちがう二人の女性が関わりあい、臆病だった人が前を向いていくので、自分も前を向いていきたいと思える本です。

また、現在と過去の話が交互に書かれていて、読み進めていくのが楽しく、おもしろく感じれます。

(投稿：T. S. さん)



『退出ゲーム』 初野 晴／著 角川書店、角川グループパブリッシング(発売)

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

表紙の男の子の顔が神妙なようすであり、なぜこのような顔をしているのか、どの場面のことなのかを考えてよむと、場面をつかむことができおもしろいところです。

(投稿：I. Mさん)

※上記推しコメントは恐らく、角川文庫の表紙についてのものなのですが、当館は単行本のみ所蔵しています。



『魂の冒険』 高橋 佳子／著 三宝出版

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

この本は私に自分もつ可能性の大きさを教えてくれました。

「自分はダメな人間だ」とか「自分なんか…」などついネガティブ思考をしてしまう人にオススメです。

ぜひ手に取って読み、自分の可能性に気付いてほしいです。

(投稿：K・Iさん)



『チーム 1』 堂場 瞬一／著 実業之日本社
『チーム 2』 堂場 瞬一／著 実業之日本社

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

毎年行われる箱根駅伝の中の学連選抜の見方がすごく変わる一作品です。

(投稿：D. Nちゃんさん)



『チャーシューの月』 村中 李衣／作, 佐藤 真紀子／絵 小峰書店

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

「あけぼの園」という児童養護施設で暮らす子どもたちが、色んな悩みを抱えながら、みんなで力を合わせて明日に向かって生きていこうとする力強さに感動しました。

(投稿：みやさん)



『ちょっと今から仕事やめてくる』 北川 恵海/[著] KADOKAWA

(この本を好きな理由/おすすめポイント)

おすすめする理由は、「自分は、会社や上司のために生きているのではない。自分と自分を大切にしてくれる人々のために生きているのだ。」という言葉で、改めて生きることの大切さを学ぶことができたからです。

(投稿：H. Tさん)



『月の裏側』 恩田 陸/著 幻冬舎

(この本を好きな理由/おすすめポイント)

この本のおもしろさは謎そのものではなく、謎に向かっていく主人公のキャラクターであるように感じました。ホラーのような、ミステリーのような不思議な物語でとても面白いです。

(投稿：KKさん)



『つぐみ』 吉本 ばなな／著 中央公論社

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

主人公の生意気さ、言動がよめなくてどんどん読み進めたいくなる。

ある少年との出会いから、物語が変わっていく感じが面白い。

主人公の恋模様がとてもあたたかくなる。

(投稿：K. Hさん)



『ツナグ』 辻村 深月／著 新潮社

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

題名にもある「ツナグ」というのは、一生に一度だけ死者と生者を会わせることができる人のことをいいます。

死者と会うなんてことは非現実なことだけれど、「自分だったら誰に会うのか」と無意識に考えてしまいます。

また、ツナグにも多くの秘密があり、読み進めるうち、それが分かっていくのでおもしろく感じると思います。

(投稿：Sさん)



『ツバキ文具店』 小川 糸／著 幻冬舎

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

インターネットやSNSが普及し、すぐに、いろいろな人と連絡が取れるようになった今だからこそ、手間をかけて書く“手紙”のもつ、人の心を動かす力というものを改めて考えさせられる本。

(投稿：T. Nさん)



『つるぎのかなた』 渋谷 瑞也／[著] KADOKAWA
『つるぎのかなた 2』 渋谷 瑞也／[著] KADOKAWA
『つるぎのかなた 3』 渋谷 瑞也／[著] KADOKAWA

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

幼い頃互いに競い合ってきた剣士が高校生になり、再び剣を交える…。
様々な人の心情が絡み合い物語はさらに加速する。

青春がつまったシリーズです！

剣道経験者はもちろん、そうでない人も楽しめると思います！

(投稿：花宮海音さん)



『天才』 石原 慎太郎／著 幻冬舎

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

この本は、作者、石原慎太郎がときの内閣総理大臣田中角栄になりかわって著しています。

「ロッキード事件」という代名詞でかざられる彼がどんなことを考えていたのか、どんな人生を送ったのかを石原慎太郎が本人だと錯覚しそうになるくらい詳細に著しているのので、読み応え抜群です。

(投稿：S. Hさん)



『天上の葦 上』 太田 愛／著 KADOKAWA

『天上の葦 下』 太田 愛／著 KADOKAWA

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

伏線が沢山あって見てて楽しいです。

主人公の3人を応援したくなります。

(投稿：T. Mさん)



『天地明察』 冲方 丁／著 角川書店、角川グループパブリッシング(発売)

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

主人公が実際にいた人で、その人の一生がわかってとてもおもしろかった。

(投稿：N. Kさん)



『読書間奏文』 藤崎 彩織／著 文藝春秋

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

この本は有名なアーティストである SEKAI NO OWARI で活躍している方が書かれた作品で、SEKAI NO OWARI としてデビューし、売れた後や前、藤崎さん自身が妊娠した後する前など、いろんな状況での価値観の違いが書かれています。

SEKAI NO OWARI をあまり知らないという人でも読みやすく、いろんなことについて考えさせられる本です。

(投稿：M. Nさん)



『となり町戦争』 三崎 亜記／著 集英社

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

突然はじまったとなり町との戦争は銃声も聞こえず、流血もないが、死人は増える。

現実感のない「現実」で、読んでいるほうも不思議なかんじがする。

私には少し難しいところもあったが、いろいろな人の考え方や生き方がわかった。

(投稿：T. Mさん)



『長浜高校水族館部!』 令丈 ヒロ子／文，紀伊 カンナ／絵 講談社

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

中学・高校の部活動をしている人におすすめ。

部活動が中心の話なので、先輩の時の苦労や後輩の自分だった時など、今の自分と重なり合って、共感できることが多いのでおもしろい。

またページ数も約200ページなので、読みやすいです。

(投稿：H・Rさん)



『なぜ僕らは働くのか』 池上 彰／監修 学研プラス

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

この本は、将来の働き方について、将来を考える機会が多くなる中学生や高校生に向けて作られた本です。

学年が上がるにつれて、私たちは今まで具体的にあまり考えることのなかった将来を考えなければならない時間が増えてきました。

そして急に真剣に考え始めたため、本当になりたい自分はなんだ、やりたいことはなんだ、好きなことで働きたいけど、難しそう…など、どちらかというところネガティブな考えが起きる人が、少なくないと気づきました。

そんな仕事に対するの様々な不安、考えを少しでもポジティブなものに変えてくれるのがこの本です。

この本は、よく TV などに出演されている池上彰さんが”マンガ”という形式を取り入れて、よりわかりやすく「働く」という問題に着目した本です。

そのため、本が苦手だなーという人でも、気軽に手に取って読むことができると思います。

また、池上さんが私たちと同じ年齢のときに、同じように将来に不安を感じた経験からきているため、共感できる話が多く、悩みや不安、「どうして?」といった疑問を根本的に解決してスッキリさせることができると思います。

そのため、この本は多くの人の仕事に対する考えをいい方向へ大きく変えると思います。

進路に迷っている生徒はもちろん、目標を明確に持っている人、ただ自分がどんなにか知りたいなー、なんていう人にも新しい発見が見つかるのではないかと思います。

目的を問わず、多くの生徒に読んでもらいたい一冊です。

(投稿：Y・Aさん)



[『謎解きはディナーのあとで 1』 東川 篤哉／著 小学館](#)
[『謎解きはディナーのあとで 2』 東川 篤哉／著 小学館](#)
[『謎解きはディナーのあとで 3』 東川 篤哉／著 小学館](#)

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

主人公のキャラクターがおもしろかった。

(投稿：Y・Cさん)



[『何者』 朝井 リョウ／著 新潮社](#)

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

主な登場人物5人それぞれの本心は何なのかを考えながら読むとおもしろいです。

衝撃の結末にこれから社会に出ていく私達に考えさせられることがあり、自立して生きていく上で大事なものを知れた気がしました。

(投稿：Y. T. さん)



『なんのために学ぶのか』 池上 彰／著 SBクリエイティブ

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

なぜ勉強しているのかと思っている人はこの本を読めば分かると思う。

(投稿：I Yさん)



『西の魔女が死んだ』 梨木 香歩／著 楡出版

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

主人公が悩んだ時に行くお気に入りの場所の情景描写がとてもきれいだから。

また、この物語には、人によって形は異なりはしても、私たちが実際に幸せに行きするためのヒントがいくつも書かれていると思う。

それは、まさに現代社会を生きる私たち、これから社会に出る私たちが、自分の力で立ち直り、自分の力で歩き始めるための社会の参考書のようなものだと私は思った。

(投稿：M. M. さん)



『人魚の眠る家』 東野 圭吾／著 幻冬舎

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

もし自分の子供が「脳死」と判定されたら、まず受け入れることができるのか、
どういう行動をとるのかなど、主人公の母と自分を置き換えて読むと、とても
深く考えさせられました。

(投稿：K. A. さん)



『脳男』 首藤 瓜於／[著] 講談社

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

2000年の江戸川乱歩賞受賞作でありとてもおもしろい作品です。
連続爆弾犯の本性をつきとめていくバイオレンスミステリーとなっています。
心理戦的な要素もありとてもオススメです。

(投稿：Kさん)



『パズル』 山田 悠介/[著] 角川書店

(この本を好きな理由/おすすめポイント)

超有名進学校のエリートたちのクラスが突然正体不明の集団に占拠され、性格最悪の教師が人質にとられた。

学校中にある2000ピースのパズルを集めないと教師は死ぬ。という状況がポイント。

(投稿: Horirin TVさん)

(この本を好きな理由/おすすめポイント)

超有名進学校のあるクラスが正体不明の武装集団に占拠されてしまいます。

人質にとられた担任を助けるには、校舎に隠された2000ものピースを見つけ、パズルを完成させること。

無事にパズルは完成するのか? 犯人たちの目的は? どんどん気になって読み進めてしまいます。

(投稿: M. Hさん)



多数メディア化される
山田 悠介さんの作品ですが、
“推し本”には『[アバター](#)』と
『[パズル](#)』がランクイン!



『初恋』 トゥルゲーネフ／著，沼野 恭子／訳 光文社

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

主人公が年上の公爵令嬢ジナイーダに振り回される様子がたまりません。
ぜひ、ジナイーダの小悪魔っぷりと主人公のいじらしさに悶えてください。
また、衝撃の結末にも刮目してください。
必ずあなたの心に残る一冊になります。

(投稿：UMA like BEARさん)



『美女と野獣』

ポーモン夫人／原作，こみね ゆら／絵，末松 氷海子／訳 偕成社

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

ディズニー作品で有名な「美女と野獣」の原作であり、外見にとらわれない
「真実の愛」が短編で描かれているので本をあまり読まない人にもおすすめ。

(投稿：S. V. さん)



『羊と鋼の森』 宮下 奈都／著 文藝春秋

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

この本は、1人のピアノ調律師の成長をえがいた物語です。

ピアノの「音」が「森」という自然と調和してえがかれていて、情景がとてもきれいです。

ひたすら一生懸命音と向き合って成長していく主人公の姿に圧倒されます。

そんな主人公の姿から、私も頑張ろう！と思えました。

また、音楽の素晴らしさを教えてくれる、そんな本です。

ぜひ読んでみてください！

(投稿：T・Aさん)



『秘密』 東野 圭吾／著 文芸春秋

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

「秘密」の正体が明かされるラストシーンがとても衝撃的で体中が熱くなっていくドキドキ感を味わえる。

(投稿：スイミーさん)



『舞台』 西 加奈子/[著] 講談社

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

主人公の若い男性がニューヨークで暮らす生活をリアルに書いた本。

自分がこの男性と同じ歳になったとき、彼の生き方も1つの選択肢としておもしろいと感じた。

心情や行動が自分とはかけはなれた異人的なものを感じないからとても読みやすい。

彼の学生時代を書いた部分では、父に複雑な気持ちを持つ心情が伝わってきて、今の自分に重なる部分が多かった。

(投稿：Aさん)

イランで生まれ、
エジプト・大阪で育ったという
西 加奈子さん。
関西弁が心地よい『[通天閣](#)』も
おすすめです！





[『偏差値70の野球部 レベル1 難関合格編』 松尾 清貴／著 小学館](#)
[『偏差値70の野球部 レベル2 打撃理論編』 松尾 清貴／著 小学館](#)
[『偏差値70の野球部 レベル3 守備理論編』 松尾 清貴／著 小学館](#)
[『偏差値70の野球部 レベル4 実戦応用編』 松尾 清貴／著 小学館](#)

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

僕も野球をしていて重なる部分が多かった。

(投稿：Y・Tさん)



[『ホームレス中学生』 田村 裕／著 ワニブックス](#)

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

全国の小中高生に読んでもらいたい。

贅沢ができる今だからこそ、この本を読むとその贅沢のありがたさに気づくことができる。

(投稿：タイゾーンさん)



『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』
プレイディみかこ／著 新潮社

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

作者と作者の息子さん（主人公）との日常の中にある様々な問題とそれをどうにかしようとする様子が面白い。

(投稿：意志河 優人さん)

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

様々なテーマがあって、どれも考えさせられます。

勉強になるのでオススメです！

(投稿：S. Hさん)

2019年に本屋大賞
ノンフィクション本大賞に
選ばれた本作は、
2人の方が“押し本”として
紹介してくれました！





『ぼくは勉強ができない』 山田 詠美/[著] 新潮社

(この本を好きな理由/おすすめポイント)

主人公の勉強、恋愛、将来に対する考え方がおもしろく、主人公が同年代ということもあり共感できる部分も多いです。

良い意味でなにも考えずに気軽に読める本なのでとてもおすすめです。

(投稿：Nさん)



『ぼくらの七日間戦争』 宗田 理/作 ポプラ社

(この本を好きな理由/おすすめポイント)

初版はかなり前だけど、現代社会に通ずるものがあり、主人公達みたいな考え方に憧れるから。

(投稿：O. Nさん)



『魔眼の匣の殺人』 今村 昌弘／著 東京創元社

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

「あと2日のうちにこの地で4人死ぬ。」人が死ぬことが前提となっている斬新なストーリーにミステリーも加わって強く心がひかれました。

ヒロインの剣崎が小さな手がかりでも犯人を見つけ出すという姿がとてもカッコよく、憧れました。

(投稿：ぴろちょさん)



『屍人荘の殺人』で
衝撃的デビューを果たした
今村 昌弘さん。
その続編となる本作も、
驚きの連続です！



『真夏の方程式』 東野 圭吾／著 文藝春秋

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

この本は殺人事件の話で、その事件は、事故なのかもしれないと言われていたが、結末は、予想以上のもので、衝撃的でした。

最後らへんは、ハッピーエンドなのかと思っていたが、最後の何ページかで、人生をかけて愛する人の罪をかぶりつづけてきた男性や、知らない間に人を殺してしまった小学生がいたことがわかり、その展開に切なくなりました。

切ない展開が心に残り、感動する物語です。ぜひ、読む時には、この後どうなるのか、色々想像しながら、読んでみてください。

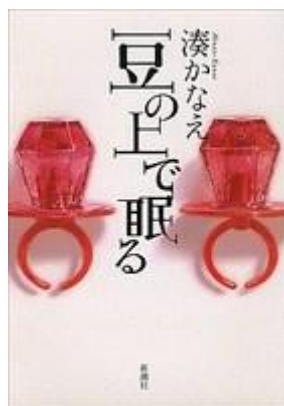
(投稿：M・Eさん)

『ガリレオ』 シリーズからは
本作以外にも、これらの
作品がランクイン！

『聖女の救済』

『容疑者Xの献身』





『豆の上で眠る』 湊 かなえ/[著] 新潮社

(この本を好きな理由/おすすめポイント)

ある事件をきっかけに、妹だけが持つ姉に対する違和感とは何なのか。
予想を超える驚きのラストが待っています。

ばらばらだったことが1つにつながっていくところがおもしろいです。

(投稿：F. Yさん)

(この本を好きな理由/おすすめポイント)

最後に驚くような事実が判明するけど、感動するお話です。

(投稿：K. Sさん)

高校の先生として
勤務していたこともある
湊 かなえさん。
“イヤミスの女王”とも
呼ばれる彼女が描くのは、
ある姉妹を巡る事件…





『三日間の幸福』 三秋 隼／[著] KADOKAWA

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

あなたの人生、何円くらいのものになると思いますか。

かけがえのないものだとか、何よりも価値のあるものだと言われている『人間の命』は、実際の金額にするといくらくらいになるのだろうか。

この本の主人公は寿命を買い取ってもらいます。1ヵ月1万円で。

主人公は、最後の最後で、本当の幸せ、1番の幸せに気がつきます。

自分にとっての幸せとは何なのだろう。

この本を読めば、1日1日の過ごし方、人と人との関わり方がきっと変わってくるはずです。

(投稿：ゴリラさん)



WEB掲示板に投稿した
文章がきっかけとなり、
小説家デビューを果たした
三秋 隼さん。
今回は、[『恋する寄生虫』](#)と
本書がランクイン！



『ミッキーマウスの憂鬱』 松岡 圭祐／[著] 新潮社

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

この本は、史上初の東京ディズニーリゾートを舞台にした青春小説です。

キャストとしてアルバイトを始めた主人公の3日間の大きな成長がテンポよく描かれています。

東京ディズニーリゾートのバックステージ(舞台裏)も知ることができて、とてもおもしろいお話になっています。

(投稿：Uさん)



『蜜蜂と遠雷』 恩田 陸／著 幻冬舎

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

小説から音楽を感じるという不思議な体験ができます。

読みごたえがあり、読んだ後に世界の音に耳を澄ませてみたくなりました。

(投稿：I. Rさん)



『名探偵の掟』 東野 圭吾／著 講談社

(古い資料のため、カバーがありません)

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

自分はあまり本を読みませんが、この本は短編小説がいくつも入っているので、1つ1つの話が長くなく、本が苦手な人も楽しめると思います。

(投稿：たこ焼きさん)



『燃える秋』 五木 寛之／著 集英社

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

- 作者は福岡生まれの方だから。
- ペルシャ絨毯の模様を細かく書かれていて想像しやすく、綺麗だから。

(投稿：K. Iさん)



『木曜日にはココアを』 青山 美智子／著 宝島社

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

普段の何気ない日常を描いた短編小説です。

12コのお話に分けられていて、1つ1つのお話には、そのお話を象徴する色があります。

また、1つのお話は約20ページほどなので少し時間がある時に手に取りやすい本です。

1つ1つのお話で主人公は変わりますが、実は、1つ前のお話に登場した人が次のお話の主人公になるので、12コのお話はつながっています。

何気ない日常に親近感が湧き、ホッとするような本です！！

(投稿：m. mさん)

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

物語の主人公が12コの話でリレーのようにつながっていくので、人と人とのつながりを感じられたり、次の主人公は誰なのかワクワクしながら読める。

あたたかい気持ちになれる素敵な本。

(投稿：S・Sさん)





『優しい死神の飼い方』 知念 実希人／著 光文社

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

緻密な伏線が最初から最後まで、これでもかどちりばめられていて、常にドキドキしながら読める上に、暖かい結末だから後味がとても良く心が満たされるから。

(投稿：Esa of Mijinkoさん)

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

犬の姿をした死神は、ホスピスにいる人を未練から救い、少しずつ人間らしい感情を持ち始める。

ミステリーの要素もありつつ、最終的には心温まるストーリーだから。

(投稿：Y・Hさん)



『仮面病棟』、
『十字架のカルテ』
に続き、3作目の
押し本が登場した
知念 実希人さん。
彼を抑えて、最も
推された作家とは！？
次のページで
いよいよ発表します！



[『誘拐遊戯』\(所蔵は改題前の『あなたのための誘拐』\)](#)

[知念 実希人/著 祥伝社](#)

(この本を好きな理由/おすすめポイント)

この本は謎解きが主体の物語なのですが、最後の方にとっても驚くような事があってすごい面白いなと思ったのでおすすめします。

(投稿: ココさん)

高校生/ティーンズの“推し著者”ランキング

最も推された著者は
住野 よるさんでした!



著者名	推された書名	件数
住野 よる	青くて痛くて脆い か「」く「」し「」ご「」と「 君の臍臓をたべたい よるのばけもの	10
東野 圭吾	聖女の救済 人魚の眠る家 秘密 真夏の方程式 名探偵の掟 容疑者Xの献身	7
知念 実希人	仮面病棟 十字架のカルテ 優しい死神の飼い方 誘拐遊戯	5
湊 かなえ	Nのために 告白 少女 豆の上で眠る	5



- [『妖怪アパートの幽雅な日常 1』 香月 日輪/\[著\] 講談社](#)
[『妖怪アパートの幽雅な日常 2』 香月 日輪/\[著\] 講談社](#)
[『妖怪アパートの幽雅な日常 3』 香月 日輪/\[著\] 講談社](#)
[『妖怪アパートの幽雅な日常 4』 香月 日輪/\[著\] 講談社](#)
[『妖怪アパートの幽雅な日常 5』 香月 日輪/\[著\] 講談社](#)
[『妖怪アパートの幽雅な日常 6』 香月 日輪/\[著\] 講談社](#)
[『妖怪アパートの幽雅な日常 7』 香月 日輪/\[著\] 講談社](#)
[『妖怪アパートの幽雅な日常 8』 香月 日輪/\[著\] 講談社](#)
[『妖怪アパートの幽雅な日常 9』 香月 日輪/\[著\] 講談社](#)
[『妖怪アパートの幽雅な日常 10』 香月 日輪/\[著\] 講談社](#)
[『妖怪アパートの幽雅な日常 ラスベガス外伝』 香月 日輪/\[著\] 講談社](#)

(この本を好きな理由/おすすめポイント)

はやく高校を出てはたらきたいと考えていた主人公タ士が住人たちとともに過ごすことで、少し遠まわりして色々なものを見ていこうと考えが変わっていくところや、住人たちの言葉に私も共感できるところがたくさんあるから。

(投稿：Y・Hさん)

『妖怪アパート』シリーズに登場する幽霊・るり子さんが作ったご飯のレシピを紹介している

[『妖怪アパートの幽雅な食卓』](#)も所蔵しています！





『容疑者Xの献身』 東野 圭吾／著 文藝春秋

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

- 男性の殺人を隠すためにはなんでもするところがおもしろい。
- 最後の展開が驚いた。

(投稿：エミールにハマールさん)

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

最後の最後まで結末がよめなくて、どんでん返しがおきて、予想もしなかった結末になるところ。

何度読み返しても新しい発見があり、おもしろいこと。

よくあるミステリーとは少し違っていて、私はこの本を読み終わったあと、とても感動しました。

ぜひ、いろいろな人に読んでほしいです。

(投稿：よかだなこさん)



福山 雅治さんの主演で
映画化された本作。
お2人の推しコメントの通り、
驚きの結末が待っています。



『よるのばけもの』 住野 よる／著 双葉社

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

主人公は夜になると目が八つ、足が六本のばけものになる。
しかし「本当のばけものとは何か」というものを考えさせられました。
正しい選択とはなにか。恐怖とはなにか。教室内にある見えない恐怖。
私たち学生だからこそ考えさせられる話でした。

(投稿：マカロニサラダさん)

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

- 読む人によって解釈がわかれるところ
- ラストの主人公の行動にとっても前向きな気持ちになった。

(投稿：S. Sさん)

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

学校で過ごす昼での時間と夜での時間を通して、少年の心情が少しずつ変化していくところがおもしろい。

(投稿：Y. Uさん)

住野 よるさんの作品で
『キミスイ』の次に
多くの方が推した作品です！





『夜は短し歩けよ乙女』 森見 登美彦／著 角川書店

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

春、夏、秋、冬の季節を巡って、黒髪の彼女とその彼女を追いかける先輩のそれぞれの目線で物語が進んでいき、2人が出会うゆかいな人々や出来事にわくわくする素敵な作品です。

(投稿：わたこさん)



『ライオンのおやつ』 小川 糸／著 ポプラ社

(この本を好きな理由／おすすめポイント)

読むと、死への考え方が今までと少し変わるような本で、最後は心が温かくなりました。

(投稿：K. Aさん)



『ラヴレター』 岩井 俊二/[著] 角川書店

(この本を好きな理由/おすすめポイント)

2つの視点からの話で、それぞれの感情の変化や謎が分かっていく感じが面白いです。

(投稿：N. K. さん)



『私は虐待していない』 柳原 三佳/著 講談社

(この本を好きな理由/おすすめポイント)

ノンフィクションを読むと、私がリアリストなだけだろうが、だいたい(内容を)盛ってんだろな。と思い、全くと言っていいほど集中できないのだが、これは結構現実味があると思う。

(少し幼稚な表現だが) 説明的文章で一番ハマった(?)のはこれ。

共感できる部分も、意味の分からない単語もあったが、それも含めてこの本の特色。

虐待の文字は奥が深い。個人の意見です。

(投稿：ほぼ匿名 R.さん)

せっかく投稿いただいたのですが、
以下の本は残念ながら当館に
所蔵がありません。
県内で所蔵している図書館は
[福岡県立図書館HP](#)より探せます。



『京都寺町三条のホームズ』シリーズ 望月 麻衣／著 双葉社

京都を舞台に描かれているので、情景を具体的に思い浮かべることができます。
また、主人公の清貴の優れた観察眼でひもといていく事件などは、とても続きが
早く読みたくなります。

もう一人の主人公・葵と清貴の2人の関係も見逃せません！

京都が好きな方、そうでない方でも楽しんで読めます。

(投稿：本棚が足りないさん)

『小説ちはやふる 結び』 末次 由紀／原作, 有沢 ゆう希／著 講談社

高校3年生になった千早、太一、新の3人が進路に恋に自分の目指すべき姿に
迷いながらも進んでいくところが自分と少し重なってみえて、心が熱く
なりました。

私が何度も何度も読んで、セリフを覚えてしまうくらい好きな本なので、
ぜひ読んでみて下さい。

(投稿：M. Sさん)

『ちぐはぐな部品』 星 新一／[著] 角川書店

ショートショート集というジャンルの本です。

この本に収録されている作品は結末に「オチ」が含まれており、そのオチを
予想しながら読み進めていくのが、この本の魅力です。

(投稿：ラッコさん)

『はるなつふゆと七福神』 賽助／[著] ディスカヴァー・トゥエンティワン

七福神好きにもそこまで好きでない人にもオススメ！

七福神のローカル2人が現代で有名になろうと奮闘する話です！

(投稿：鯛焼きさん)



発行 令和2年10月27日 福岡県立図書館

〒812-8651

福岡市東区箱崎1-41-12

福岡県立図書館 総合サービス室 一般図書班

電話：092-641-1123

FAX：092-641-1127